

# 花見の季節 人気沸騰

## 文人の 武蔵野

正岡子規が小金井で花見をした4年後の1889年（明治22年）、甲武鉄道が開通します。武蔵境と国分寺に停車場が置かれ、花見の時期には割引切符が発行され、臨時列車が増発されました。日曜日には、東京から数千人もの花見客が小金井を訪れたそうです。小金井が「名所」であるのは、桜樹があるからでした。

小金井桜という一本調子の公式ができそうな傾向に對

### 並木仙太郎 ⑤



桜並木には、小金井桜の碑が立つ（小金井市で）

してやや異なる観点を示したのが、国木田独歩や並木仙太郎でした。

1901年、独歩は「武蔵野」（民友社）で「小金井は桜の名所」であるが小金井の

魅力はそれだけではない（季節を外して夏の散歩もおもしろい）というエピソードを、東京の人間（外来者）の視点から語ります。

1913年、並木は「武蔵野」（民友社）で「小金井の名は古来櫻花によりて現はる。蓋し小金井の櫻は関東多く其比を見ざる所、然れども獨り櫻花のみをもて小金井を論ずるは、未だ誠の小金井を解せざるものなり」と記しました。

独歩も並木も、桜だけで小金井を語るな、としています。が、どちらも小金井の桜を否定するものではありません。花見の季節の小金井にそれだけ過剰な人気と賑わいがあったことの証左でしょう。

小金井は「東京」からはるばる訪れる遠方の地であると認識されていました。その地

を目指して都心から好んで訪れる文人墨客がいました。そのうちのひとりである正岡子規は、鉄道開通前に小金井を訪れています。国木田独歩が訪れたのは開通後でした。

鉄道敷設は東京と小金井の距離を縮め、小金井に一般の花見客を誘致しました。上野や浅草、隅田川など、当時の東京にも桜の名所はたくさんありました。それでもなお小金井桜に東京から人が集まったのは、それだけ独特の魅力があったことが推察されます。

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）



過去の連載は、読売新聞オンラインでお読みいただけます。スマートフォンはQRコードから。